

第 9 期経営計画(変更)

(第 2 期経営改善実行計画)

当初 自 平成 18 年 4 月 1 日
至 平成 23 年 3 月 31 日

期間

変更 自 平成 18 年 4 月 1 日
至 平成 25 年 3 月 31 日

平成 20 年 3 月
高知県森林整備公社

参 考 资 料

参考資料2 ランク分けの分析

(1) ランク分けの結果

団地ごとに長期収支見通しをランク分けすれば、表-1のとおりである。

これを見ると、「A」は面積で47%、分収後の収入で66%、「B」は面積で26%、分収後の収入で28%あるのに比べて、「C」は面積で11%を占めるが、分収後の収入は6%、「D」は面積で6%、分収後の収入は0.8%、「E」は面積で11%、分収後の収入は0.2%を占めるのみです。

また、「A」の収入で「B」及び「C」の一部をカバーできる状況にあります。

「E」の中にはクヌギ造林地及び不成績林等の今後収支改善の見込まれない団地があります。

表-1 長期収支見通しの内訳（一般会計）

団地数	A		B		C		D		E	
	金額等	構成比%	金額等	構成比%	金額等	構成比%	金額等	構成比%	金額等	構成比%
面積	400	43.7	278	30.4	116	12.7	37	4.0	84	9.2
収入	6,507	47.3	3,512	25.5	1,481	10.8	751	5.5	1,515	11.0
支出	22,255,566	66.0	9,259,221	27.5	1,878,050	5.6	263,319	0.8	59,775	0.2
既投資額	17,481,652	46.4	10,980,603	29.2	3,966,056	10.5	1,682,904	4.5	3,543,592	9.4
将来投資額	11,814,514	44.5	7,605,015	28.6	2,820,519	10.6	1,368,506	5.2	2,960,800	11.1
投資額	5,667,138	51.1	3,375,588	30.5	1,145,537	10.3	314,398	2.8	582,792	5.3
支払利息	4,087,579	56.0	2,147,241	29.6	645,152	8.9	149,856	2.1	243,561	3.4
収支差額	1,609,559	41.9	1,228,347	32.0	500,385	13.0	164,542	4.3	339,231	8.8
	4,773,914	-121.2	-1,721,382	43.7	-2,088,006	53.0	-1,419,585	36.0	-3,483,817	88.4

単位：件、ha、千円

(2) 投資額から見た分析（表-2）

1ヘクタール当りの既投資額は平均193万円で、全てのランクにおいて平均の15%の範囲内にあり、ランクによる大きな変動は見られない。

また、1ヘクタール当りの将来投資額（見込み）は、「A」、「B」、「C」では平均に対して100%前後となっているが、「D」、「E」では52%以下となっています。これは、契約延長が進んでいないことによるものと推測されます。

表-2 1ヘクタール換算の投資額（一般会計）

	A		B		C		D		E		平均	
	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%
既投資額	1,816	94.1	2,165	112.2	1,905	98.7	1,822	94.4	1,954	101.2	1,930	100.0
将来投資額	871	108.2	961	119.4	774	96.1	419	52.0	385	47.8	805	100.0
計	2,687	98.2	3,126	114.3	2,679	98.0	2,241	81.9	2,339	85.5	2,735	100.0

単位：千円

(3) 分収後の収入額から見た分析 (表一3)

1ヘクタール当りの分収後の収入額は、「A」で342万円に対して「E」では4万円弱となっており、平均は245万円となっています。また、1ヘクタール当りの収支差額は、「A」で73万円の黒字の見込みであるが、「E」では230万円の赤字となっています。(表一4)

表一3 1ヘクタール当りの収入 (分収後、一般会計) 単位：千円

	A		B		C		D		E		平均	
	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%
分収後の収入額	3,420	139.6	2,636	107.6	1,266	51.8	351	14.3	39	1.6	2,449	100.0

表一4 1ヘクタール当りの収支差額 (一般会計) 単位：千円

	A		B		C		D		E		平均	
	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%	金額	対平均%
収支差額	734	-256.6	-490	171.3	1,410	493.0	-1,890	660.8	-2,299	803.8	-286	100.0

(4) 団地の立地条件から見た分析 (表一5)

団地の立地条件を索道距離及び運搬トラックの規格で見ると、「A」では索道距離500mで11t車が採用可能な団地の面積が最も多いのに対して、「B」では索道距離1000mで11t車の団地が多くなっており、4t車の団地も多く含まれている。「C」では索道距離500mで11t車の団地が多く、「D」では索道距離500mで11t車の団地が多くなっています。「E」では索道距離1000mで11t車の団地が多くなっています。全体として、「A」の条件がよく、「B」以下は大きな差は見られません。

表一5 索道距離別トラック規格別ランク (一般会計) 単位：ha、件

索道距離	A		B		C		D		E	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
500m	2,881	169	613	64	425	39	404	15	315	17
500m	406	23	367	17	101	7	0	0	209	6
500m	1,174	101	736	78	328	26	57	5	377	27
小計	4,461	293	1,716	159	854	72	461	20	901	50
構成比	68.55%	73.3%	48.8%	57.4%	57.7%	62.1%	61.4%	54.1%	59.4%	67.6%
1000m	1,370	78	862	46	404	26	172	8	353	13
1000m	175	5	204	11	76	2	19	1	89	2
1000m	502	24	731	61	147	16	99	8	173	9
小計	2,047	107	1,797	118	827	44	290	17	615	24
構成比	31.5%	26.8%	51.2%	42.6%	42.3%	37.9%	38.6%	45.9%	40.6%	32.4%
計	6,508	400	3,513	277	1,481	116	751	37	1,515	74

注：端数処理のため合計が合わない。また、解約等の団地数は集計から除いています。

(5) 契約年数から見た分析 (表-6)

契約年数から見た場合、「A」は100%、「B」は80%が80年以上の契約となっており、「C」は12%、「D」、「E」は0%となっています。

言い換えれば、60年以下の契約を含む「B」以下では、全て収支差額が赤字となっており、このことはヒノキの占める割合が高く、60年生以下では収権表の材積が少なく、形質も劣ることから木材価格が安いことにあると考えられます。

表-6 ランク別契約年数別団地数 (一般会計)

単位：件

契約年数	A		B		C		D		E	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
0			1	0.4%					10	11.9%
50			3	1.1%	24	20.7%	25	67.6%	42	50.0%
60			52	18.7%	78	67.2%	12	32.4%	32	38.1%
70	1	0.3%								
80	394	98.5%	220	79.1%	14	12.1%				
90	5	1.3%	2	0.7%						
計	400	100.0%	278	100.0%	116	100.0%	37	100.0%	84	100.0%

注：契約年数0は解約等の団地